



令和3年3月12日14時00分
資料配布 近畿地方整備局
(国土交通本省 同時発表)

「道路に設置する透光性遮音板の技術」の技術比較表を公表します ～新技術活用システムにおけるテーマ設定型(技術公募)の取り組み～

国土交通省では、公共工事における新技術活用システムの活用方式「テーマ設定型(技術公募)」※により、技術テーマ「道路に設置する透光性遮音板の技術」について、同一の評価項目や試験方法で現場実証試験等を実施しました。この度、試験結果を技術比較表としてとりまとめましたので、公表します。

○「道路に設置する透光性遮音板の技術」

1. 公募概要と比較対象技術 :別紙1
2. 技術比較表 :別紙2

○試験結果等の掲載

NETISサイト「テーマ設定型」の比較表

<https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubtheme/themesettings> にて公表していますので、詳しくは、本サイトをご覧ください。

※「テーマ設定型(技術公募)」:直轄工事等における現場ニーズ・行政ニーズ等に基づき技術テーマを設定し、民間等から技術の公募を行い、同一条件下での現場実証等を経て、個々の技術の特徴を明確にした資料(技術比較表)を作成し、新技術の活用を促進する取り組み。

<取扱い> _____

<配布場所> 近畿建設記者クラブ 大手前記者クラブ

<問合せ先>

国土交通省 近畿地方整備局
TEL: 06-6942-1141 (代表) 06-6920-6023 (直通) FAX: 06-6942-4439
企画部 施工企画課 課長 児玉 孝司 (こだま たかし)
建設専門官 武本 昌仁 (たけもと まさひと)

1. 公募した技術

- ・「道路に設置する透光性遮音板の技術」

2. 比較対象技術

別紙1－1（8技術）

3. 性能評価項目と試験方法

別紙1－2

各試験方法の概要は参考資料のとおり。

4. 技術比較表の公表

試験結果等を取りまとめた技術比較表を、別紙2のとおり公表する。

5. 技術比較表公表の目的

透光性遮音板の技術は、製品、材質によって異なる特徴を有しており、これらの特徴を踏まえ、用途に適した技術を現場に用いるため、求めるべき性能や性能評価項目、試験方法を設定した上で、同一条件の下での比較表を作成したものである。

なお、全ての性能を一律に求めるのではなく、設置箇所等によって求める性能を選択するものであり、性能評価基準値（技術基準値）を設定することや、設置箇所等により求める性能を設定することは目的としていない。

比較対象技術 一覧表

公募技術：道路に設置する透光性遮音板の技術


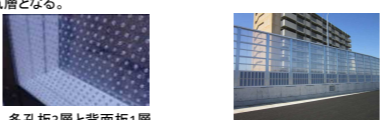


番号	技 術 名	透光部材	NETIS番号	応募者名
1	積層型難燃アクリル板を用いた透光性遮音板	アクリル	KT-130001-A	株式会社イシクラ
2	エコキューオンクリア	ポリカーボネート	KK-180057-A	神鋼建材工業株式会社
3	ポリカーボネート樹脂板(t10mm)を使用した透光性遮音板	ポリカーボネート	申請中	積水樹脂株式会社
4	ポリカーボネート樹脂板(t17mm)を使用した透光性遮音板	ポリカーボネート	申請中	
5	化学強化合わせガラスを用いた透光性遮音板「ライトウインド」	ガラス	申請中	日鉄建材株式会社
6	合わせ網入りガラス透光性遮音板	ガラス	KT-120019-A	日本環境アメニティ株式会社
7	網入りガラス透光性遮音板	ガラス		
8	飛石対策フィルムによる透光板保護技術「サーフタック」	ガラス+フィルム	申請中	日東電工株式会社

透光性遮音板性能評価項目と試験方法

性能種別	性能評価項目			性能評価指標	試験方法		備考
	項目	分類	内容		規格	試験方法	
基本性能	音響性能	A-1	遮音板が直接音を遮蔽する減音比	400Hzおよび1,000Hzにおける音響透過損失	JIS_A_1416	・「実験室における建築部材の空気音遮断性能の測定方法」による	(枠が付いた)実製品を対象に実施
安全性能	強度	B-1	遮音板の横断方向に作用する風荷重に対する強度	風荷重 (橋梁部: 2.0kN/m ² 以上 土工部: 1.5kN/m ² 以上) に対し、十分な強度を有すること	NEXCO 試験法901	・「遮音壁の強度試験方法」	同上
	耐衝撃性能	B-2	車両の積荷が遮音板へ衝突し、破損した場合の透光部材飛散状況	破片飛散防止率 最大破片重量	NEXCO 試験法902	・「遮音壁の耐衝撃性試験方法」による	同上
	耐燃焼性能	B-3	遮音板の車両火災等への安全性	燃え抜けがない燃焼時間 (上限値60分。60分以内に燃え抜けた場合は、そこまでの時間とし、試験を終了する) ※燃え抜け ・非加熱側へ10秒を超えて継続する火炎の噴出がある ・非加熱面で10秒を超えて継続する発炎がある ・火炎が通る亀裂等の損傷が生じる	JIS_R_3204	・「網入板ガラス及び線入板ガラス」加熱試験による	同上
	耐飛び石性能	B-4	飛び石等の飛来物衝突に対する他の要求性能の保持性	損傷形態 (目視評価)	NEXCO 試験法908	・「遮音壁の耐飛び石性試験方法」による	同上
耐久性能	C-1	初期及び実験室光源暴露後の曇り具合	初期及び促進暴露5,000時間後の曇価 (ヘーズ)	初期及び促進暴露10,000時間後の曇価 (ヘーズ)	・促進暴露: JIS_K_7350 ・曇価: JIS_K_7136	・「プラスチック-実験室光源による暴露試験方法-第2部:キセノンアークランプ」による促進暴露試験 ・暴露後、「プラスチック-透明材料のヘーズの求め方」による ・同一種類、同一規格の製品であれば、5,000時間暴露の試験体と異なる製造ロットの試験体による初期値測定を可とする	透光部材を対象に実施
			初期及び促進暴露5,000時間後の黄色度(YI)				
視認性能	D-1	・周辺住居の日照確保性 ・眺望の確保性 ・交通安全上の視認性の確保性	全光線透過率、平行光線透過率 (初期値、促進暴露5,000時間後)	全光線透過率、平行光線透過率 (初期値、促進暴露10,000時間後)	・促進暴露 JIS_K_7350 ・全光線透過率 JIS_K_7361-1	・「プラスチック-実験室光源による暴露試験方法-第2部:キセノンアークランプ」による促進暴露試験 ・「プラスチック-全光線透過率の試験方法-第1部:シングルビーム法」による	同上





※その他の性能は、個別の現場での必要に応じて、求める性能の内容・程度を判断する。

『道路に設置する透光性遮音板の技術』技術比較表

応募資料情報		材質	アクリル		ポリカーボネート																			
番号			1	2	3	4																		
技術名称			積層型難燃アクリル板を用いた透光性遮音板	エコキューオンクリア	ポリカーボネート樹脂板(t10mm)を使用した透光性遮音板	ポリカーボネート樹脂板(t17mm)を使用した透光性遮音板																		
NETIS番号			KT-130001-A	KK-180057-A	申請中	申請中																		
応募者(共同開発者)			株式会社インシラ	神鋼建材工業株式会社	積水樹脂株式会社																			
技術概要			本技術は、積層構造の15mmのアクリル板を用いた技術である。 	本技術は、共鳴型吸音構造の原理を利用した、微細な多数の孔を用い、主材料をポリカーボネートとし吸音構造体を構成した技術である。4層構造で各層間は空気層となる。 	本技術は、ポリカーボネート樹脂板を使用した技術である。(部材厚10mm) 	本技術は、ポリカーボネート樹脂板を使用した技術である。(部材厚17mm) 																		
経済性			80,340円/㎡ (施工規模関係なし) ※寸法は、1m(H)×2m(W) (必要付属品) ・固定金具 H125用、SUS製 990円/個 (100個/100㎡) ・落下防止索 H=2.0m、スチール、φ6.3×L7540 7,800円/本 (50本/100㎡) ・ワイヤー止め金具 SUS製 3,100円/個 (50個/100㎡)	61,500円/㎡ (施工規模600m2以上) 63,650円/㎡ (施工規模200m2以上600m2未満) 69,650円/㎡ (施工規模200m2以下) ※遮音板寸法は1,000(H)×1,960(W)に限定 (必要付属品) ・固定金具 H=2.0m、支柱径H-125×125用、SUS製 780円/個 (100個/100㎡) ・落下防止索 L=5.0m 鋼製 5,200円/本 (51本/100㎡)	50,500円/㎡(アイボルト無し) 51,000円/㎡(アイボルト付き) ※施工規模関係なし (必要付属品) ・固定金具 1,000~2,550円/個(100個/100㎡) ※支柱(H鋼)サイズにより異なる ・落下防止索 27,100~円/本(50本/100㎡) ※アイボルト付きのみ必要 ※遮音板設置高さにより異なる ・ワイヤー止め金具 3,100円/ヶ (落下防止索本数と同数/100㎡) ※アイボルト付きのみ必要	61,000円/㎡(アイボルト無し) 61,500円/㎡(アイボルト付き) ※施工規模関係なし (必要付属品) ・固定金具 1,000~2,550円/個(100個/100㎡) ※支柱(H鋼)サイズにより異なる ・落下防止索 27,100~円/本(50本/100㎡) ※アイボルト付きのみ必要 ※遮音板設置高さにより異なる ・ワイヤー止め金具 3,100円/ヶ (落下防止索本数と同数/100㎡) ※アイボルト付きのみ必要																		
性能評価項目		性能評価指標		試験条件・結果等																				
項目	分類	内容	試験方法(規格)	試験体・仕様等		試験結果		試験体・仕様等		試験結果		試験体・仕様等		試験結果										
基本性能	音響性能	A-1	遮音板が直接音を遮蔽する減音比	400Hzおよび1,000Hzにおける音響透過損失	JIS_A_1416	「実験室における建築部材の空気音遮断性能の測定方法」による	試験体開口部 W2.7m×H1.8m	400Hz	30.1dB	試験体開口部 W3.70m×H2.74m	400Hz	25.0dB	試験体開口部 W2.70m×H1.8m	400Hz	26.8dB	試験体開口部 W2.70m×H1.8m	400Hz	30.6dB						
								1000Hz	36.8dB		1000Hz	33.7dB		1000Hz	34.2dB		1000Hz	36.9dB						
安全性	強度	B-1	遮音板の横断方向に作用する荷重に対する強度	風荷重 (橋梁部: 2.0kN/m2以上 土工部: 1.5kN/m2以上) に対し、十分な強度を有すること	NEXCO 試験法901	「遮音壁の強度試験方法」	1960*1000*15mm (開口部高さ905mm)	透光部材の中心たわみ量 25.7mm		1960*1020*88mm (開口部高さ903mm)	透光部材の中心たわみ量 3.15mm		1960*1020*10mm (開口部高さ915mm)	透光部材の中心たわみ量 22.0mm		1960*1020*17mm (開口部高さ915mm)	透光部材の中心たわみ量 6.8mm							
								開口部高さ905mm/15=60.3mm ・試験結果25.7mm<60.3mmでありOK ・試験前、最大荷重後、完全除荷後いずれも破損なし、異常変形なし、脱落なし		開口部高さ903mm/15=60.2mm ・試験結果3.15mm<60.2mmでありOK ・試験前、最大荷重後、完全除荷後いずれも破損なし、異常変形なし、脱落なし		開口部高さ915mm/15=61.0mm ・試験結果22.0mm<61.0mmでありOK ・試験前、最大荷重後、完全除荷後いずれも破損なし、異常変形なし、脱落なし		開口部高さ915mm/15=61.0mm ・試験結果6.8mm<61.0mmでありOK ・試験前、最大荷重後、完全除荷後いずれも破損なし、異常変形なし、脱落なし										
							耐衝撃性能	B-2	車両の積荷が遮音板へ衝突し、破損した場合の透光部材飛散状況	破片飛散防止率	NEXCO 試験法902	「遮音壁の耐衝撃試験方法」による	1960*1000*15mm	破片総重量	0.01g	1960*1020*88mm	破片総重量	0.00g	1960*1020*10mm	破片総重量	0.00g	1960*1020*17mm	破片総重量	0.00g
													飛散防止率	99.99%	飛散防止率	100.00%	飛散防止率	100.00%	飛散防止率	100.00%				
耐燃焼性能	B-3	遮音板の車両火災等への安全性	燃え抜けがない燃焼時間 (上限値60分、60分以内に燃え抜けた場合は、そのまでの時間を、試験を終了する) ※燃え抜け ・非加熱側へ10秒を超えて継続する火災の噴出がある ・非加熱側で10秒を超えて継続する発火がある ・火災が通る亀裂等の損傷が生じる	JIS_R_3204	「網入板ガラス及び線入板ガラス」加熱試験による	2000*1000*15mm	燃焼時間	12分 (12分以上は未実施)	1960*1020*88mm	燃焼時間	9分16秒	1960*1020*10mm	燃焼時間	4分 (4分以上は未実施)	1960*1020*17mm	燃焼時間	12分 (12分以上は未実施)							
						燃え抜け	無し	燃え抜け	有り	燃え抜け	無し	燃え抜け	無し											
耐飛び石性能	B-4	飛び石等の飛来物衝突に対する他の要求性能の保持性	損傷形態 (目視評価)	NEXCO 試験法908	「遮音壁の耐飛び石性試験方法」による	1960*1020*15mm	① 打痕なし 貫通なし	② 打痕なし 貫通なし	③ 打痕なし 貫通なし	④ 打痕なし 貫通なし	⑤ 打痕なし 貫通なし	⑥ 打痕なし 貫通なし	1960*1020*88mm	① 打痕なし 貫通なし	② 打痕あり 貫通なし	③ 打痕あり 貫通なし	④ 打痕あり 貫通なし	⑤ 打痕あり 貫通なし	⑥ 打痕なし 貫通なし					
						試験は3枚実施し、いずれも同じ結果となった。(黒い印は加撃位置)	打痕は枠材部、透光部材は打痕なし	試験は3枚実施し、いずれも同じ結果となった。(黒い印は加撃位置)	試験は3枚実施し、いずれも同じ結果となった。(黒い印は加撃位置)															

※各技術共通事項: 「安全性」の試験体寸法は、枠材幅×枠材高さ×透光部材厚mm
 ※各技術共通事項: 「耐久性」「視認性」の①②は試験体番号(①②は試験体2枚で実施)
 ※各技術共通事項: 「試験中」の項目は試験終了後に結果を掲載予定

『道路に設置する透光性遮音板の技術』技術比較表

応募資料情報	材質		ガラス			ガラス+フィルム																							
	番号	技術名称	5	6	7	8																							
	NETIS番号	申請中	化学強化合わせガラスを用いた透光性遮音板「ライトウインド」	合わせ網入りガラス 透光性遮音板	網入りガラス 透光性遮音板	飛石対策フィルムによる透光板保護技術「サーフタック」																							
	応募者(共同開発者)	申請中	日鉄建材株式会社	日本環境アミニティ株式会社	KT-120019-A	申請中																							
技術基本情報	技術概要		本技術は、透明部材に化学強化合わせガラスを用いた技術である。 	本技術は、合わせガラスで且つ民地側に網入りガラスを用いた技術である。 	本技術は、網入りガラスを用いた技術である。 	本技術は、透光板に貼付施工するフィルム技術である。 																							
	経済性		透光性遮音板価格 (2021年1月時点)	84,000円/㎡ (施工規模1,000㎡以上) 92,400円/㎡ (施工規模500㎡~1,000㎡未満) 100,800円/㎡ (施工規模100㎡~500㎡未満) ※製品サイズによらず価格は同等 (必要付属品) ・固定金具 880円/個 (透光板用H125用) 1,450円/個 (透光板用H150用) (100個/100㎡(支柱2mスパン)) (50個/100㎡(支柱4mスパン)) ・落下防止糸 17,800~32,400円/本 ※H=4m以下、壁高さにより単価異なる ※設置場所によっては不要 (13本/100㎡(H=4m、支柱2mスパン)) ・ワイヤー止め金具 3,000円/個 (13本/100㎡(H=4m、支柱2mスパン)) ※詳細は各応募者に問合せ下さい。	71,000円/㎡ ※直部仕様 1,000(H)×1,960(W)の場合 ※補修用の場合を除く (必要付属品) ・固定金具 1,000~2,000円/個 (100個/100㎡) ・落下防止糸 1本/支柱1本 必要 24,000~37,000円/本 (15~25本/100㎡) ※1,000(H)×1,960(W)の場合の数量	56,250円/㎡ ※直部仕様 1,000(H)×1,960(W)の場合 ※補修用の場合を除く 66,750円/㎡ ※R部仕様 1,000(H)×1,960(W)の場合 ※補修用の場合を除く (必要付属品) ・固定金具 1,000~2,000円/個 (100個/100㎡) ・落下防止糸 1本/支柱1本 必要 24,000~37,000円/本 (15~25本/100㎡) ※1,000(H)×1,960(W)の場合の数量	【ガラス+フィルム】120,600円/㎡ ※ガラス製透光板にTPUフィルムを貼り合わせた製品 ※上記金額は、ガラス込みの価格 ※使用するガラスの仕様は以下の通り。(日本板硝子(株)製) ・合わせガラス12mm <強化ガラス(タフタイト)+特殊中間膜 > ・耐熱強化ガラス(バイロクリア)> (強化ガラス(タフタイト)側にフィルム貼付) (必要付属品) ・固定金具 450円/個 (100個/100㎡) ・落下防止糸 2,200円/本 (100本/100㎡) 【フィルムのみ】30,000円/㎡(施工規模関係なし)																						
性能種別	性能評価項目		性能評価指標	試験方法(規格)	試験条件・結果等			試験条件・結果等			試験条件・結果等			試験条件・結果等															
	項目	分類			試験体・仕様等	試験結果		試験体・仕様等	試験結果		試験体・仕様等	試験結果		試験体・仕様等	試験結果														
基本性能	音響性能	A-1	遮音板が直接音を遮蔽する減音比	400Hzおよび1,000Hzにおける音響透過損失	JIS_A_1416	「実験室における建築部材の空気音遮断性能の測定方法」による	試験体開口部 W3.65m×H2.74m	400Hz	33.8dB	試験体開口部 W2.70m×H1.8m	400Hz	34.0dB	試験体開口部 W2.70m×H1.8m	400Hz	29.6dB	試験結果なし (透光部材の性能によるところが大きく、フィルムの性能によらないため)													
								1000Hz	33.4dB		1000Hz	35.3dB		1000Hz	34.1dB														
安全性	強度	B-1	遮音板の横断方向に作用する荷重に対する強度	風荷重 (橋梁部:2.0kN/㎡以上 土工部:1.5kN/㎡以上) に対し、十分な強度を有すること	NEXCO 試験法901	「遮音壁の強度試験方法」	1960*1000*21.8mm (開口部高さ880mm)	透光部材の中心たわみ量 0.9mm		3960*1000*14mm (開口部高さ860mm)	透光部材の中心たわみ量 4.0mm		3960*1000*6.8mm (開口部高さ860mm)	透光部材の中心たわみ量 9.4mm		試験結果なし (透光部材の性能によるところが大きく、フィルムの性能によらないため)													
							開口部高さ880mm/15=58.7mm ・試験結果0.9mm<58.7mmでありOK ・試験前、最大荷重後、完全除荷後いずれも破損なし、異常変形なし、脱落なし		開口部高さ860mm/15=57.3mm ・試験結果4.0mm<57.3mmでありOK ・試験前、最大荷重後、完全除荷後いずれも破損なし、異常変形なし、脱落なし		開口部高さ860mm/15=57.3mm ・試験結果9.4mm<57.3mmでありOK ・試験前、最大荷重後、完全除荷後いずれも破損なし、異常変形なし、脱落なし																		
							耐衝撃性能	B-2	車両の積荷が遮音板へ衝突し、破損した場合の透光部材飛散状況	破片飛散防止率	NEXCO 試験法902	「遮音壁の耐衝撃性試験方法」による	1960*1000*21.8mm	破片総重量	101.5g	1960*1020*14mm	破片総重量	160g	1960*1000*6.8mm	破片総重量	2900g	試験結果なし (透光部材の性能によるところが大きく、フィルムの性能によらないため)							
													飛散防止率	99.90%	飛散防止率	99.67%	飛散防止率	89.53%											
耐燃性能	B-3	遮音板の車両火災等への安全性	燃え抜けがない燃焼時間(上限値60分、60分以内に燃え抜けた場合は、そのまでの時間とし、試験を終了する) ※燃え抜け ・非加熱側へ10秒を超えて継続する火災の噴出がある ・非加熱側で10秒を超えて継続する発炎がある ・火災が通る亀裂等の損傷が生じる	JIS_R_3204	「網入板ガラス及び線入板ガラス」加熱試験による	1960*1000*21.8mm	燃焼時間	12分 (12分以上は未実施)	2140*940mm*14mm	燃焼時間	60分	1800*900*6.8mm	燃焼時間	60分	試験結果なし (透光部材の性能によるところが大きく、フィルムの性能によらないため)														
						燃え抜け	無し	燃え抜け	無し	燃え抜け	無し																		
耐飛石性能	B-4	飛び石等の飛来物衝突に対する他の要求性能の保持性	損傷形態(目視評価)	NEXCO 試験法908	「遮音壁の耐飛石性試験方法」による	1960*1000*21.8mm	① 打痕なし 貫通なし	① 打痕あり 貫通なし	1960*1000mm*14mm	① 打痕あり 貫通なし	1960*1000mm*6.8mm	① 打痕あり 貫通あり	① 打痕あり 貫通なし	打痕はフィルム部のみ(写真左)で、ガラス部(写真右)は打痕なし															
						② 3枚中1枚打痕 貫通なし	② 打痕あり 貫通なし	③ 打痕なし 貫通なし	③ 打痕あり 貫通なし	④ 打痕なし 貫通なし	④ 打痕あり 貫通あり	⑤ 打痕なし 貫通なし	⑤ 打痕あり 貫通あり	⑥ 打痕なし 貫通なし	⑥ 打痕あり 貫通あり														
耐久性能	C-1	実験室光源暴露後の曇り具合	初期及び促進暴露5,000時間後の曇り(ヘーズ)	・促進暴露 JIS_K_7350 ・曇り JIS_K_7136	「プラスチック-実験室光源による暴露試験方法-第2部:キセノンアークランプ」による促進暴露試験 ・暴露後、「プラスチック-透明材料のヘーズの求め方」による	65*145*21.8mm	①	3.3	1.3	-2.0	75*75*14mm	①	0.35	0.74	+0.39	75*75*6.8mm	①	1.60	1.23	-0.37	ガラス355*75*12+フィルム	①	0.7	4.7	+4.0				
						65*145*21.8mm	①	3.3	1.38	-1.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
		初期および実験室光源暴露後の黄色度	初期及び促進暴露5,000時間後の黄色度(YI)	・促進暴露 JIS_K_7350 ・黄色度 JIS_K_7379	「プラスチック-実験室光源による暴露試験方法-第2部:キセノンアークランプ」による促進暴露試験 ・暴露後、「プラスチック-黄色度及び黄変度の求め方」による	65*145*21.8mm 視野角2°	①	-0.5	-1.3	-0.8	75*75*14mm 視野角10°	①	3.2	2.8	-0.4	75*75*6.8mm 視野角10°	①	0.0	-0.3	-0.3	ガラス355*75*12+フィルム	①	1.44	1.76	+0.3				
						65*145*21.8mm 視野角2°	①	-0.5	-0.65	-0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
視認性能	D-1	周辺住居の日照確保性 騒音の確保性 交通安全上の視認性の確保性	全光線透過率、平行光線透過率(初期値、促進暴露5,000時間後) Tt: 全光線透過率 Th: 平行光線透過率	・促進暴露 JIS_K_7350 ・全光線透過率 JIS_K_7361-1	「プラスチック-実験室光源による暴露試験方法-第2部:キセノンアークランプ」による促進暴露試験 ・「プラスチック-全光線透過率の試験方法-第1部:シングルビーム法」による	65*145*21.8mm	①	Tt	81.94	81.16	-0.78	75*75*14mm	①	Tt	85.74	79.96	-5.78	75*75*6.8mm	①	Tt	88.34	88.63	+0.29	ガラス355*75*12+フィルム	①	Tt	86.1	85.4	-0.7
								Th	79.70	79.92	+0.22			Th	85.44	79.37	-6.07			Th	86.93	87.54	+0.61			Th	85.5	81.4	-4.1
								Tt	81.94	81.70	-0.24			Tt	85.75	79.95	-5.80			Tt	88.50	88.59	+0.09			Tt	86.1	85.5	-0.6
								Th	79.70	80.57	+0.87			Th	85.39	79.16	-6.23			Th	87.10	87.47	+0.37			Th	85.5	81.4	-4.1
備考						耐久性能、視認性能の促進暴露10,000時間については実施しないため、「-」と表記。						耐久性能、視認性能の促進暴露10,000時間については実施しないため、「-」と表記。						本技術はフィルム技術であるため、貼り付ける透光部材の適用範囲、条件等については、応募者に確認すること。											

※各技術共通事項:「安全性」の試験体寸法は、枠材幅×枠材高さ×透光部材厚mm
 ※各技術共通事項:「耐久性能」「視認性能」の①②は試験体番号(①②は試験体2枚で実施)
 ※各技術共通事項:「試験中」の項目は試験終了後に結果を掲載予定